

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	③-51	実施計画番号		事業開始年度	平成27年度
事務事業名	開票事務の早期終了			事業終了年度	
担当課名	選挙管理委員会			事務の種類(選択)	法定受託事務
根拠法令等	公職選挙法第6条第2項	関連事務事業	県知事選挙、県議会議員選挙		
背景や経緯等	有権者に開票結果をできるだけ早く周知する。				
事務事業の目的	開票事務を早期に終了する。				
実施状況	青森県知事選挙	平成23年6月5日	開票開始21時15分	開票終了22時39分	
		平成27年6月7日	開票開始21時10分	開票終了22時57分	【18分超過】
	青森県議会議員一般選挙	平成19年4月8日	開票開始21時15分	開票終了22時39分	
	(平成23年；無投票)	平成27年4月12日	開票開始21時10分	開票終了22時15分	【24分短縮】

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	0	216	
	活動日数(日)	0	1	
	人件費(千円)	0	7,776	0
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	0	0	
	活動日数(日)	0	0	
	人件費(千円)	0	0	

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		0	7,776	0

【指標】

活動指標	活動指標名①	二つの選挙の平均			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	(22時57分+22時15分)/2	時、分		22時36分	
	活動指標名②				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①	開票終了時刻の短縮			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	100-(22:36-22:29)/(22:36-21:10)*100	時、分	目標値	22時29分	
			実績値	22時36分	
			達成度(%)	91%	
	成果指標名②				
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		目標値			
		実績値			
		達成度(%)	#VALUE!		

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">選挙により公務員を選定することは国民の権利であり、県知事選挙及び県議会議員選挙は法定受託事務なので執行しなければならない。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	選挙により公務員を選定することは国民の権利であり、県知事選挙及び県議会議員選挙は法定受託事務なので執行しなければならない。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
選挙により公務員を選定することは国民の権利であり、県知事選挙及び県議会議員選挙は法定受託事務なので執行しなければならない。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">2 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">人員削減等を既に行っているが、成果を下げずに実施されていないので、今後更なる改良の余地がある。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	2 / 6	人員削減等を既に行っているが、成果を下げずに実施されていないので、今後更なる改良の余地がある。	
	成果向上の余地	2 / 6								
	人員削減等を既に行っているが、成果を下げずに実施されていないので、今後更なる改良の余地がある。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1	5	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">開票作業者のローテーション等により効率化を図ったが、正確性に少し時間がかかっているため、更なる検討が必要である。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	1 / 6	開票作業者のローテーション等により効率化を図ったが、正確性に少し時間がかかっているため、更なる検討が必要である。	
	コスト削減の余地	1 / 6								
	開票作業者のローテーション等により効率化を図ったが、正確性に少し時間がかかっているため、更なる検討が必要である。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">公平な選挙を執行しており、市民へ負担を求めることはできない。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	公平な選挙を執行しており、市民へ負担を求めることはできない。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
公平な選挙を執行しており、市民へ負担を求めることはできない。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					17 / 20	改善の余地	3 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **17** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **3** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

開票事務の人員配置や工程を更に改良し、正確性を損なわずに開票結果をできるだけ早く公表できるようにしていく。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

開票事務の人員配置や工程を更に改良し、正確性を損なわずに開票結果をできるだけ早く公表できるようにしていく。